「中核市サミット 2025ｉｎ福井」の報告書

創世下関　江村　卓三

日　時：令和７年10月30日（木）

場　所：福井市（フェニックス・プラザ）

今回の中核市サミットは、“幸福を実感できる中核市の実現”を大きなテーマとし、一人ひとりが紡ぐ希望あふれるまちづくりについて、「スポーツを通じた楽しいまちづくり」「地域に密着した安心な福祉体制のあり方」「元気×イノベーション」のパネルディスカッションが各会場であり、基調講演として「地域から新しい日本をつくる」がありました。

基調講演は、大学教授の講演らしく難しい話で、参考にはなりませんんでしたが、パネルディスカッションはパネラーが市長と言うこともあり、地元の課題を

如何に解決していくかの話があり、参考となる有意義な時間となりました。

私がお聞きしたパネルディスカッションは、自分が市のスポーツ推進委員として活動をしている関係上「スポーツを通じた楽しいまちづくり」です。

○コーディネーター　福井工業大学教授（建築土木工学科）　吉村朋矩

○パネラー（３市長）

・富山市長　藤井裕久・西宮市長　石井登志郎・福井市長　西行　茂

はじめに、ニューヨーク・タイムズ「2025年に行くべき52か所」に選定された富山市のまちづくりですが、コンパクトなまちづくりとして公共交通を軸とした拠点集中型で、スポーツを活かしたまちづづくりです。当市の市街地は、鉄路によって南北に分断されていましたが、北陸新幹線開業にあわせ南北の市街地の繋がりを再構築し、都市の転換を図り、スポーツを軸に都市構造を変えていったお話でした。まさに都市の改革とスポーツの力を借りながら、まちが育まれていく場所へとかわりつつあることが感じられた発言でした。

また、未来に向けては、アリーナ（富山市総合体育館Ｒコンセッション事業）が完成すれば、スポーツを中心とした新しい都市の風景が生まれ、未来への期待が高まるものでした。

次に、西宮市ですが、当市は阪神球場のあるまちだけに、その球場を核としたスポーツ文化が地域の誇りとして根ずいており、スポーツと教育を結び付けた取組が紹介されました。そして、これが子供たちの成長と教育に繋がっており、スポーツが誇りの時間を作り出しているとのことでした。

部活動の地域展開においてですが、どのように進めていくべきなのかという問題点については、部活動は技術を教えるだけではなく、スポーツに関わることの教育を学ぶことも必要であるとのご意見でした。

次に、「住みよさランキング2025」全国総合1位の福井市ですが、映画にもなった福井商業高校チアリーダー部ＪＷＴＳがあるように各ダンスが盛んなまちで、桜マラソンなどスポーツチームとの混活連携をし、福井アリーナ構想などまち全体をスポーツフィールドに変えていく挑戦が進んでいるとのことでした。

そして、福井がまちづくりとして目指しているのは、スポーツを通じて人々が感情を共有する大切さを知り、人々の心が動く瞬間を都市の中にどう取り組んでいくかと言うことでした。

3市の取り組みで言えることは、スポーツが都市の中でどのように人の誇りや感情を育てているかでした。スポーツは感情を動かすだけでなく、健康・教育・観光・地域産業などあらゆる分野と結びつき、社会の万能コンテンツであるということでした。

2023年の世界のスポーツ産業市場規模は、半導体やスマートフォン、再生可能エネルギー当の市場規模（約73兆円）に匹敵するほどで、更に、今後10年間で約1.8倍（約129兆円）に成長する見込みであるとのことでした。

スポーツがいかにまちづくりの一助となるかですが、スポーツが人を動かし、未来にどのようにつなげていくか、各中核市は人口、産業、地形などまちとしての条件が違いますので、その違いを活かしてしっかりと取り組んでいきたいと考えました。